

平成30年度第2回 仙台市放課後子ども総合プラン運営委員会  
(議事録)

- 1 日 時 平成30年11月28日(水) 13時30分～17時00分
- 2 場 所 仙台市立東宮城野小学校内
- 3 出席者 委員定数10名(出席委員8名、欠席委員2名)  
(1)出席 梨本雄太郎委員長、長内美香子副委員長、遠藤源太郎委員、小岩孝子委員、佐藤亜矢子委員、佐藤ゆうこ委員、高山典子委員、三浦和美委員  
(2)欠席 蘆澤義章委員、堀越祥浩委員
- 4 議事録署名委員 遠藤源太郎委員、小岩孝子委員
- 5 報告事項  
(1)「新・放課後子ども総合プラン」について  
(2)放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の連携に関する実施状況調査等の結果について
- 6 議 事  
(1)放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の連携に関する現地視察について  
(2)放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の連携に関する関係者ヒアリングについて  
(3)放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の連携の在り方等に係る意見交換について

---

議事要旨

- 1 開会
- 2 委員長挨拶
- 3 報告事項  
(1)「新・放課後子ども総合プラン」について  
資料1及び参考資料に基づき、児童クラブ事業推進室長より説明。  
(2)放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の連携に関する実施状況調査等の結果について  
資料2～5に基づき、児童クラブ事業推進室長より説明。

<質疑応答>

(梨本委員長)

資料2の6ページ目において、各事業の利用者が他方の事業を利用する場合の意見として「移動に不安がある」とあるが、東宮城野や加茂小学校区ではこれに関し工夫されていること等はあるのか。

(児童クラブ事業推進室 推進係長)

東宮城野に関しては、両事業が小学校内で実施されているので、あまり懸念はないようであるが、加

茂に関しては、児童センターが小学校の敷地外で徒歩 15 分程度の距離にあるため、連携にあたっては職員が引率して対応した。

(梨本委員長)

高学年児童も加えた上で児童のみで移動することは難しいものか。

(児童クラブ事業推進室 推進係長)

現状においてはなかなか難しい。

(小岩委員)

児童にとって様々な体験をすることは大切であるが、児童クラブが小学校の敷地外にあるような場合は、職員の引率や高学年児童を含めた移動等、何かしらの対応が必要となる。

(長内副委員長)

やはり連携する場合は、双方でどのように連絡を取り合うかを考える必要がある。

#### 4 議事

(1) 放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の連携に関する現地視察について

(2) 放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の連携に関する関係者ヒアリングについて

資料 6 に基づき、児童クラブ事業推進室長より説明。

菊地省三氏(加茂児童センター所長)、萱場宏明氏(加茂っ子クラブ放課後教室代表)、瀬戸理音氏(東宮城野マイスクール児童館館長)及び齋藤礼子氏(東宮城野あけぼの教室代表)より連携状況等の説明。

<質疑応答>

(梨本委員長)

ワーカーズコープとひと・まち交流財団は、それぞれどの程度市内で児童館を運営しているのか。

(児童クラブ事業推進室 推進係長)

ワーカーズコープは 8 館、ひと・まち交流財団は 81 館である。

(梨本委員長)

運営する児童館数に関わらず、いずれの運営団体においても、運営方針はある程度一貫したものとなっているのか。

(児童クラブ事業推進室 推進係長)

各地域の特徴を反映しつつ、運営団体の方針等に基づき一定程度同様の取組みを行っている。

(梨本委員長)

連携して取り組まれた 3 日間は具体的にどのような活動をされたのか。

(菊地所長)

いずれも児童センターの職員が児童を引率した上で参加し、3 日間のうち 1 日は児童センターのプログラムを子ども教室において実施した。

(梨本委員長)

連携した 3 日間とは別に、夏祭りやセンターまつり等、双方が協力した日も何日かあるようだが、これらはこういった形の協力なのか。

(菊地所長)

児童クラブと子ども教室の 2 者間だけではなく、町内会や子供会育成会等の地域団体が主催の行事に

児童センターや子ども教室の職員が参加・協力して実施したものである。

(梨本委員長)

そのような取組みをされる際は、準備のための打ち合わせ等を綿密に行ったのか。

(菊地所長)

はい。これまで実施してきた流れに沿った形で打ち合わせ等を行った。

(萱場代表)

学校支援地域本部のスーパーバイザーやコーディネーターとのネットワークを活用することにより、連携が図りやすくなることもある。

(小岩委員)

子ども教室の開設日である休日には土曜日や日曜日も含まれているのか。また、児童クラブとの連携はそれらの日にも行っているのか。

(萱場代表)

子ども教室単独で開設する休日は少ないが、他団体と共催で行事等を実施している場合もある。また、必ずしも土曜日や日曜日に児童クラブと連携しているわけではない。

(小岩委員)

双方が協力して実施した各行事の主催はどこになるのか。

(菊地所長)

加茂夏祭りは連合町内会、センターまつり及び恵方巻きは児童センター、カモンレインボーフェスティバルは児童センター、子ども教室、PTA等からなる実行委員会が主催である。

(小岩委員)

地域の様々な行事に児童クラブと子ども教室が関わっており、連携が図られているように感じる。

(佐藤(亜)委員)

必ずしも双方が行事等を行うことだけが連携ではなく、児童についての情報を交換することや他団体が実施する行事に地域の一員として双方が参加することも1つの連携の形であると思うので、こういった取組みを各地域に発信していくべきである。また、子ども教室の職員としてPTAOGや育成会等が携わっているようであるが、どのような経緯で子ども教室に関わることとなったのか。

(萱場代表)

知り合いであった民生委員、ジュニアリーダー等に声をかけ、子ども教室を立ち上げた経緯があるが、現在は新しい人材の確保が困難な状況にある。

(梨本委員長)

児童クラブと子ども教室の1対1の連携だけではなく、児童に関わる様々な活動や地域の大人等とのつながりも連携のきっかけになり得るかもしれない。

(高山委員)

子ども教室に学校支援地域本部の方も関わっているとのことであったが、どういった方が何名関わっており、それによるメリットは何か。

(萱場代表)

学校支援地域本部のスーパーバイザー1名が関わっており、行事を行う際に手伝っていただいたり、情報交換・共有を行ったりしている。

(梨本委員長)

町内会との関わりも密なものになっているのか。

(萱場代表)

はい。例えば、商工会が中心となって運営する桜まつりでは、子ども教室、連合町内会等が協力しており、行事等がある際は地域全体で協力するような雰囲気ができている。このような関係は、学校支援地域本部のスーパーバイザーが様々な情報を発信している成果である。

(梨本委員長)

子ども教室では連携することについてどのように捉えているか。

(萱場代表)

職員数が限られている中、できることは多くないが、例えば、高齢者の方に手伝っていただきながら工作活動を行う等、地域の方から協力をいただくとともに、そのような方々の居場所づくりにもなるよう意識しながら活動している。

(梨本委員長)

児童センターにおいても高齢者等、地域の方々と関わる機会があるのか。

(菊地所長)

運営団体の運営方針として地域交流や世代間交流等を掲げており、高齢者を含め地域の方々に協力いただいている。

(長内副委員長)

それぞれの行事に小学校の先生は関わっているのか。

(菊地所長)

小学校に対し行事等への参加を求めているが、担任の先生が子ども教室の活動の様子を見に来ることはある。また、児童センターが小学校と情報交換を行う機会を定期的に設けている。

(萱場代表)

子ども教室においても小学校に対し特段声掛けはしていないが、障害児が参加する際等は先生から積極的に関わっていただいている。

(梨本委員長)

情報交換を行う場では、児童の特徴等の具体的な話題も挙がってくるのか。

(菊地所長)

はい。

(小岩委員)

視察時は、2名の方が子ども教室に従事されていたが、普段は何名程度が携わっているのか。

(齋藤代表)

通常は3~4名が従事している。

(小岩委員)

登録児童数60名というのは、どのように把握しているのか。

(齋藤代表)

年度当初に子ども教室利用に関する承諾書を保護者より提出していただき、それにより利用する児童数を管理しているが、当日の参加児童数は事前に把握していない。

(小岩委員)

児童クラブは登録児童数 40 名のうち、毎日何名程度が利用しているのか。

(瀬戸館長)

20 名程度である。

(小岩委員)

双方の児童数が少数であれば連携しやすいように思う。

(梨本委員長)

活動場所は教室内に限定しているのか。

(齋藤代表)

大人の目が必ず届く教室内に限定している。また、子ども教室の活動は週 1 回のため、毎週連携して実施することは難しい。

(小岩委員)

例えば、水曜日だけではなく、土曜日や平日以外の午前中等にも連携できないかと感じた。

(梨本委員長)

双方の全ての児童・職員が連携するのではなく、子ども教室に参加する児童クラブの児童もいれば、そうでない児童もいるというように、様々な連携の種類があってもいいのではないかと。

(佐藤 (亜) 委員)

保護者からの子ども教室利用に関する承諾書の提出により把握した児童のうち、児童クラブの児童は何名程度いるのか。

(齋藤代表)

児童クラブへの登録状況は確認していない。

(佐藤 (亜) 委員)

児童が自ら児童クラブ又は子ども教室等、放課後の居場所を選択できることが、同一小学校内で両事業を実施していることの強みであると感じた。東宮城野小学校区では、加茂小学校区のように学校支援地域本部からの協力等、地域とのつながりはあるのか。

(齋藤代表)

地域の方を講師にお呼びして協力いただいている。

(三浦委員)

様々な家庭環境にある児童が、ある程度環境が保障された上で、多様な活動を体験できることは有意義であるので、地域の力を借りながら、年 1~2 回程度でも何か連携する機会があればと感じた。

(佐藤 (ゆ) 委員)

コーディネーターや児童と関わっていただく地域の方々をどのように増やしていくかが課題と感じており、地域の方々に協力いただいている活動等を整理し、こちらから現場にそのような事例をまとめて紹介するような機会を設けることが地域とつながるきっかけになる。

(梨本委員長)

人材確保において工夫していること等を各地域で共有していけると良い。

(遠藤委員)

連携する上で物理的距離はやはり課題である。例えば、児童クラブの児童を子ども教室へ参加させる

又はその逆の場合、一旦は児童クラブ又は子ども教室の管理下になるので、児童の安全管理を各地域に役立つような形で考えていく必要がある。

(佐藤(亜)委員)

他に何か連携する上での課題等はあるか。

(萱場代表)

児童クラブの児童が子ども教室のプログラムに参加した際の保険の適用をどうするのか、また、やはり物理的距離からなかなか連携が難しいということが課題として挙げられた。

(菊地所長)

連携する上でも、職員が企画書を作成し保護者に説明する等が必要となるため、職員の負担増加が課題と感じている。

(齋藤代表)

教室内での活動中は小学校の保険の適用となるが、子ども教室の活動によっては、保護者より保険料を徴収し対応している。

(瀬戸館長)

児童クラブの職員が子ども教室まで児童を引率する際に事故や怪我等があった場合は、児童クラブで加入している保険の適用となる。

(梨本委員長)

それぞれ単独ではできないようなことを連携することによって、双方のメリットとなるよう、課題や目的を日頃から共有すること、また、放課後の時間が短くなる中で、児童が遊んだり生活したりする力を身につけていくことが大切である。

(佐藤(亜)委員)

連携を進めていく上では、職員の加配等に必要な予算措置が必要であり、また、保護者の教育という観点から児童自身も自分の身をしっかりと守る力を身につけることが大切である。

(齋藤代表)

子ども教室の活動に保護者も参加することにより、保護者がそのような部分を意識するようになればと思っている。

(三浦委員)

仙台市における連携した取組みをどのように発信していくかが重要であり、例えば、仙台市のホームページに掲載し、市内の各地域や他の自治体がそれを参考に連携を進めていく等が考えられる。

(児童クラブ事業推進室長)

放課後子ども総合プランへの対応は、仙台市のすこやか子育てプランにも位置付けられており、当該プランの議論の場である子ども・子育て会議や仙台市のホームページ等で発信できるものと考えている。

(遠藤委員)

議論している連携の在り方のような細かなものをすこやか子育てプランに掲載することは難しいが、この委員会で最終的に取りまとめる提案書を通して、仙台市における両事業の様々な連携を各地域の参考となるよう有効に発信していきたい。

(3) 放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の連携の在り方等に係る意見交換について

(三浦委員)

各地域で参考となるような人材確保の取組みや具体的な活動内容等を発信していくこと、また、人口減少により地域とのつながりが希薄化する中においては、児童にとって様々な居場所を選択できることが大切である。

(小岩委員)

子ども教室においても活動状況等の情報を発信しているが、その捉え方は様々であると感じる。やはり連携する上では小学校とのつながりが大切である。

(高山委員)

仙台市の学校は地域と共に歩む学校を目指しているので、どの小学校も地域とつながろうという意識を持っている。多忙化が問題になっている中、学校は地域とのつながりの必要性を理解している。

(遠藤委員)

子ども教室は小学校とのつながりが重要であるが、児童館の場合は地域によって小学校とのつながりに差がある。加茂小学校区は以前から地域連携が図られているが、例えば、市民センター併設の児童館は地域との連携が進んでいるというように、地域によって状況は様々である。

(佐藤(亜)委員)

少子化が進行している地域もあれば共働き家庭が多い地域もあり、また、児童館と小学校の距離においても近距離にある地域もあればそうでない地域もある。地域によって取組み内容が異なるが、小学校、保護者、児童クラブ、子ども教室等、地域全体で児童を育てるという意識が大切である。

(梨本委員長)

情報交換においても何をどこまでやるというように画一的に決めるのではなく、このようなやり方もあるというようにいくつかの方法を例示することが大切である。地域には異なる役割を持った団体が複数あるということを意識しながら連携を考えていくと良い。

(長内副委員長)

将監小学校区においても子ども教室と児童クラブの距離が離れているため、情報交換程度であれば可能であるが、どのような連携ができるか双方で話し合っていく必要がある。また、障害児の関係で小学校の先生に相談することはあるが、頻繁に子ども教室に顔を出していただくことは難しいと感じる。

(佐藤(亜)委員)

子ども教室に関わっていた小学校の先生が異動になることもあり、そのあたりが難しいところである。

5 その他

次回の日程、場所等については改めて調整して決定。

6 閉会

会議録署名委員

小岩 孝子



会議録署名委員

遠藤 源太郎



